

成瀬が丘 防災つうしん



No.3

平成27年4月4日
成瀬が丘自治会自主防災部



●自治会館の改修工事の完了

自治会館の改修工事が完了し外装内装とも大変明るくなりました。岡庭会長はじめ改修委員の皆様大変お疲れ様でした。

今回の改修工事の主たる目的は自治会館の耐震化でした。(広報で報告済み) 工事の完了により震度6強の地震が起きても一気に建物が倒壊しない耐震基準1.0以上を確保し、震災時は成瀬が丘自治会の防災の拠点となります。

阪神淡路大震災の犠牲者の死亡推定時刻を調べたデータがあります。それによると早朝5時46分に地震が発生し、6時までに約92%の人が亡くなっているとのこと。犠牲者の92%は地震発生直後の14分間に死亡しており、レスキュー等の事後対応では救うことができない犠牲者がほとんどであったという事実があります。

このことは、家屋の倒壊または家具の転倒により、逃げるに逃げられなかった人がいかに多かったかということをお話しています。

我々も震度6強の地震で、我が家が倒壊したり、家具が転倒したりしないよう対策を取りたいもの、取って欲しいものです。(昭和56年以前の建物は特に対応が必要です)

●防災講演会

2月8日、ふれあい会館で『出張防災講演会』がありました。(広報で報告済み) 講師で町田災害ボランティアの会の長田博氏のご自身の経験から、自主防災の問題点や地域で取り組んだ活動のあれこれ等、多方面にわたり熱心に語ってくれ、我々も多くの知識を得たと思います。中でも特に印象に残ったことは「人と人とのつながり、あいさつが飛び交う街」に勝る自主防災組織はないという話でした。

3月1日、南市民センターで『南地区防災講演会』がありました。(広報で報告済み) 総務省消防庁消防研究センターの講師による南地区の震災時における火災の広がり、延焼シミュレーションの説明が各自治会ごとであり、成瀬が丘の場合は震度6強以上の地震で火災が起こると10数分で隣家に燃え移り、1時間程度で向こう三軒両隣が火に包まれ、そのまま放置すれば24時間後には成瀬が丘のほとんどが燃え尽きてしまうとのことでした。この説明で、震災時の初期消火の大切さを認識したとともに、如何に火災を起こさない、起こさせないことが重要であることを改めて痛感しました。

二つの講演会から感じたことは、火災を起こさせないこと、近所(助)の付き合い・話し合いが、成瀬が丘の防災力の向上につながるということです。

従来から言われている自助、共助、公助の他に、近助(近所)が今注目されています。近所とは成瀬が丘自治会で言えば班に当たります。班員同士の理解が深まり、近所であいさつが飛び交うようになれば、それが安全・安心な街につながります。

班長さんをお願いします

班会を開いて近所の理解を深めてください。そのことが災害時の命を救います。
※班会の開催については自治会事務局(042-796-8876)へお問い合わせください。

